

〔引用文献〕

- [1] 吾郷健二「近代化とメキシコ農業」(吾郷健二『第三世界論への視座』世界書院, 1988年, 129~233ページ)。
- [2] アンドラーデ, グスターボ(畑恵子訳)「コロンビアの独自の民主化過程」([108] 所収, 197~224ページ)。
- [3] 石井章「メキシコのエヒードの実態に関する覚え書」(『アジア経済』第11巻第3号, 1970年3月, 64~79ページ)。
- [4] 石井章『メキシコの農業構造と農業政策』研究双書344, アジア経済研究所, 1986年。
- [5] 石井章「ラテンアメリカの農業構造における土着の部門」([78] 所収, 55~84ページ)。
- [6] 石井章編『ラテンアメリカの土地制度と農業構造』研究双書313, アジア経済研究所, 1983年。
- [7] 石井章編『ラテンアメリカの都市と農業』研究双書364, アジア経済研究所, 1988年。
- [8] 今井圭子「CEPALにおけるラテンアメリカ研究——『プレビッシュ理論』の再検討をめぐる——」([30] 所収, 45~72ページ)。
- [9] 今井圭子「アルゼンチンの土地所有制度に関する覚え書——独立以降第1次大戦前までの官有地分割政策をめぐる——」([78] 所収, 159~181ページ)。
- [10] 今井圭子「アルゼンチンの鉄道国有化——ポンド処理との関連において——」(I) (II) (『アジア経済』第16巻第2号, 1975年2月, 37~50ページ; 第16巻第3号, 1975年3月, 33~50ページ)。
- [11] 今井圭子「旧英領カリブ諸国の経済自立への試み」(『アジア経済』第23巻第7号, 1982年7月, 35~47ページ)。
- [12] 今井圭子「アルゼンチンにおける借地法成立の背景」([6] 所収, 263~278ページ)。
- [13] 今井圭子『アルゼンチン鉄道史研究——鉄道と農牧産品輸出経済——』研究双書335, アジア経済研究所, 1985年。
- [14] 宇佐見耕一「アルゼンチンにおける輸入代替工業化と外国資本」(丸谷吉男編『ラテンアメリカの経済危機と外国投資』研究双書376, アジア経済研究所, 1989年, 331~369ページ)。
- [15] 大串和雄「ラテンアメリカの新しい社会運動——研究の概観と評価——」(『アジア経済』第32巻第4号, 1991年4月, 14~32ページ)。

- [16] 大原美範「ラテン・アメリカ経済発展の条件」(『アジア経済』第5巻第9号, 1964年9月, 2~15ページ)。
- [17] 大原美範「ラテン・アメリカ経済統合の効果とその条件」(『アジア経済』第7巻第6号, 1966年6月, 2~21ページ)。
- [18] 大原美範編『アンデス諸国の経済発展』アジア経済調査研究双書114, アジア経済研究所, 1965年。
- [19] 大原美範編『ラテン・アメリカ自由貿易連合』アジア経済調査研究双書123, アジア経済研究所, 1966年。
- [20] 大原美範編『中米共同市場』アジア経済調査研究双書134, アジア経済研究所, 1967年。
- [21] 大原美範編『ラテン・アメリカ経済統合と経済開発』アジア経済調査研究双書151, アジア経済研究所, 1968年。
- [22] 大原美範編『ラテン・アメリカ経済統合の条件』アジア経済調査研究双書169, アジア経済研究所, 1969年。
- [23] 岡倉古志郎・寺本光朗編『チリにおける革命と反革命』大月書店, 1975年。
- [24] 岡部広治「ラテンアメリカ研究の課題——キューバ革命の問題提起を中心に——」([30]所収, 13~44ページ)。
- [25] 岡部広治「ソ連におけるラテンアメリカ研究」([30]所収, 140~160ページ)。
- [26] 岡部広治「革命キューバにおける農地改革と経済発展」([30]所収, 207~238ページ)。
- [27] 岡部広治「戦後ファシズムの諸問題」(『歴史学研究』1976年11月, 165~173ページ)。
- [28] 岡部広治「特集『ラテンアメリカの軍部』について」(『アジア経済』第18巻第2号, 1977年2月, 2~6ページ)。
- [29] 岡部広治「チリの軍についてのノート(Ⅰ)——歴史的考察——」(『アジア経済』第18巻第2号, 1977年2月, 48~62ページ)。
- [30] 岡部広治編『ラテン・アメリカ経済発展論』アジア経済調査研究双書203, アジア経済研究所, 1972年。
- [31] 遅野井茂雄「ラテンアメリカの権威主義と組合国家主義——二つの論文集によせて——」(『アジア経済』第18巻第10号, 1977年10月, 85~103ページ)。
- [32] 遅野井茂雄「軍政と政治発展——ペルーにおけるSINAMOSと軍部——」(Ⅰ)(Ⅱ)(『アジア経済』第19巻第10号, 1978年10月, 24~43ページ; 第19巻第11号, 1978年11月, 42~61ページ)。
- [33] 遅野井茂雄「ペルー『革命』と第三世界外交——その論理と国内環境——」([74]所収, 59~86ページ)。
- [34] 遅野井茂雄「ペルーの政治社会変動——転換期社会に関する序論的考察

- 」([44] 所収, 65~97ページ)。
- [35] 遅野井茂雄「中央アンデス諸国における民主化——ペルー, エクアドル, ボリビア——」([108] 所収, 65~114ページ)。
- [36] 加賀美充洋「ブラジルにおけるインフレーション」(『アジア経済』第18巻第10号, 1977年10月, 43~61ページ)。
- [37] 加茂雄三「ラテン・アメリカ自立化の史的展望——対米関係を中心に——」([104] 所収, 197~218ページ, 224~226ページ)。
- [38] 加茂雄三「キューバの対外政策と第三世界」([74] 所収, 13~31ページ)。
- [39] 河合恒生「ボリビアにおける軍隊と政治——ひとつの歴史的素描——」(『アジア経済』第18巻第2号, 1977年2月, 31~47ページ)。
- [40] 国本伊代「ペルーの近代化とナショナリズム——軍部による改革への道——」([104] 所収, 87~114ページ, 220~221ページ)。
- [41] 国本伊代「メキシコ・モレロス州における糖業アシエンダの形成と発展——19世紀の変容過程を中心に——」([6] 所収, 49~74ページ)。
- [42] 小池洋一「ブラジルの企業金融——間接金融方式の確立——」(『アジア経済』第21巻第7号, 1980年7月, 35~63ページ)。
- [43] 小池洋一「ブラジルにおける一日系人の企業者活動——山本勝造とその経営理念——」(『アジア経済』第31巻第1号, 1990年1月, 48~60ページ)。
- [44] 小坂允雄・丸谷吉男編『変動するラテンアメリカの政治・経済』研究双書334, アジア経済研究所, 1985年。
- [45] 狐崎知己「メキシコにおける都市民衆運動と都市政策」([7] 所収, 39~76ページ)。
- [46] 後藤政子「ペルーにおける革新的ペラスコ軍事政府の成立について——その成立前史の検討を通じて——」(『アジア経済』第18巻第2号, 1977年2月, 63~81ページ)。
- [47] 後藤政子「軍政下チリの経済構造の変動について」(『アジア経済』第23巻第12号, 1982年12月, 70~83ページ)。
- [48] コトレール, フリオ(村上勇介訳, 遅野井茂雄監訳)「1980年代民主化の課題と展望」([108] 所収, 49~64ページ)。
- [49] 桜井雅夫「ブラジルにおける対外利潤送金制限法の立法過程——経済発展と法——」(『アジア経済』第4巻第5号, 1963年5月, 44~66ページ)。
- [50] 佐藤明夫「植民地時代イスパノ・アメリカにおける土地所有制度——法的側面からの研究——」([78] 所収, 11~54ページ)。
- [51] 佐藤勤治「メキシコ近代綿工業の形成における『アヒオティスタ』の役割——1830~53年——」(『アジア経済』第30巻第6号, 1989年6月, 2~19ページ)。

- [52] 佐藤勲治「世紀転換期メキシコにおける近代綿業の展開——『アヒオティスタ』から移民企業家への担い手の移動——」(『アジア経済』第31巻第1号, 1990年1月, 61~76ページ)。
- [53] 篠沢恭助「アルゼンチンにおけるインフレ財政の諸問題」(『アジア経済』第7巻第6号, 1966年6月, 22~47ページ)。
- [54] 清水透『エル・チチョンの怒り——メキシコにおける近代とアイデンティティ——』東京大学出版会, 1988年。
- [55] 寿里順平「パナマ・ナショナリズムの側面——1920~30年代の大衆運動をめぐって——」([104] 所収, 59~86ページ, 219~220ページ)。
- [56] 寿里順平「言語変容からみたプエルトリコ人のアイデンティティ」(『アジア経済』第25巻第12号, 1984年12月, 50~73ページ)。
- [57] 巢山靖司「アメリカ合衆国におけるラテンアメリカ研究の動向——経済学・政治学・社会学におけるキューバ革命前後の傾向変化を中心にして——」([30] 所収, 73~101ページ)。
- [58] 高橋正明「アルゼンチンにおける支配体制の危機と1930年, 1943年のクーデター——ペロニズム成立前史——」(『アジア経済』第18巻第2号, 1977年2月, 7~30ページ)。
- [59] 高橋正明「軍政下のチリ都市民衆」([7] 所収, 3~37ページ)。
- [60] 高橋正明「チリにおけるポブラドーレス研究の展開」(『アジア経済』第32巻第4号, 1991年4月, 33~55ページ)。
- [61] 高山智博「メキシコ・ナショナリズムと土着民問題」([104] 所収, 35~58ページ, 219ページ)。
- [62] 田口陽一「ラテン・アメリカ経済と外資」(『アジア経済』第10巻第10号, 1969年10月, 37~57ページ)。
- [63] 田中祐二「ブラジルにおける自動車産業の発展——組立部門の競争形態と部品部門の構造変化——」(『アジア経済』第31巻第1号, 1990年1月, 25~47ページ)。
- [64] 谷浦妙子「一貫製鉄の経済開発効果分析——ブラジルのミナス・ジェライス製鉄の事例研究——」(『アジア経済』第28巻第3号, 1987年3月, 2~21ページ)。
- [65] 辻豊治「ペルー・コスタにおけるアシエンダの発展——エンコミエンダからプランテーションまで——」([6] 所収, 171~192ページ)。
- [66] 恒川恵市「『革命』と自動車産業政策の展開」(『従属の政治経済学——メキシコ——』東京大学出版会, 1988年, 74~105ページ)。
- [67] 恒川恵市「メキシコPRI体制の危機と再編——1971~90年——」(『アジア経済』第31巻第11号, 1990年11月, 2~14ページ)。
- [68] 中川文雄「ボリビアの『近代化』とアシエンダの確立」([78] 所収, 85~120

- ページ)。
- [69] 中川文雄「人種関係と社会変動」([121] 所収, 73~95ページ)。
- [70] 中川文雄「アンゴラ内戦とキューバ」([74] 所収, 33~57ページ)。
- [71] 中川文雄「カリブ海諸国のナショナル・アイデンティティー形成の中での黒人とアフリカ」([74] 所収, 165~188ページ)。
- [72] 中川文雄「ブラジルの民主化と政治伝統」([108] 所収, 147~196ページ)。
- [73] 中川文雄「ブラジルにおける人種関係——人種デモクラシー批判抬頭下での現況——」(『アジア経済』第27巻第6号, 1986年6月, 2~25ページ)。
- [74] 中川文雄編『現代ラテンアメリカの対アジア・アフリカ関係』研究双書292, アジア経済研究所, 1980年。
- [75] 長嶋佳子「ジャマイカの土着バプテスト教会——奴隷制社会における黒人のアイデンティティとキリスト教をめぐって——」(『アジア経済』第25巻第12号, 1984年12月, 84~107ページ)。
- [76] 西川大二郎「ラテンアメリカ農業研究の視角」([78] 所収, 3~10ページ)。
- [77] 西川大二郎「ブラジル・サンパウロ州の農業とその発展過程」([78] 所収, 183~223ページ)。
- [78] 西川大二郎編『ラテンアメリカの農業構造』アジア経済研究双書222, アジア経済研究所, 1974年。
- [79] 西島章次編『ラテンアメリカのインフレーション』研究双書403, アジア経済研究所, 1990年。
- [80] 西向嘉昭『ブラジルの工業化とインフレーション』アジア経済調査研究双書109, アジア経済研究所, 1964年。
- [81] 西向嘉昭「ブラジルの工業化と外国資本——対外利潤送金制限法をめぐって——」(I)(II) (『アジア経済』第6巻第11号, 1965年11月, 27~37ページ; 第6巻第12号, 1965年12月, 20~30ページ)。
- [82] 西向嘉昭「アジェンテの経済政策の基本路線とチリ経済」(『アジア経済』第14巻第11号, 1973年11月, 2~19ページ)。
- [83] 西向嘉昭『ラテン・アメリカ経済統合論——その理論的・実証的研究——』有斐閣, 1981年。
- [84] 間寧「ラテンアメリカの官僚型権威主義体制——ギジェルモ・オドンネルの研究によせて——」(『アジア経済』第27巻第2号, 1986年2月, 26~38ページ)。
- [85] 畑恵子「アグラリスモと農民統合——メキシコ・ベラクルス州の場合——」([6] 所収, 103~129ページ)。
- [86] 幡谷則子「ラテンアメリカにおける『都市インフォーマル・セクター論』」

- (『アジア経済』第27巻第12号, 1986年12月, 45~65ページ)。
- [87] 幡谷則子「コロンビアの都市化と雇用構造の変化」([7]所収, 77~140ページ)。
- [88] 二村久則「エチエベリア政権期メキシコの『第三世界外交』と連繫モデル」([74]所収, 87~109ページ)。
- [89] 二村久則「80年代コロンビアの政治システム——暴力と談合民主主義——」(『アジア経済』第31巻第11号, 1990年11月, 15~34ページ)。
- [90] 淵上隆「パラグアイ農業の展開と農地改革」(『アジア経済』第26巻第7号, 1985年7月, 15~41ページ)。
- [91] 星野妙子「鉱業のメキシカナイゼーション——その成果と問題点——」(『アジア経済』第21巻第11号, 1980年11月, 92~103ページ)。
- [92] 星野妙子「メキシコの民族系大企業グループ——1970年代から80年代初頭における急成長過程——」(I) (II) (『アジア経済』第29巻第9号, 1988年9月, 34~55ページ; 第29巻第10号, 1988年10月, 22~38ページ)。
- [93] 星野妙子「メキシコの民族系企業グループの発展要因——自動車部品工業におけるデスク・グループの事例——」(『アジア経済』第31巻第1号, 1990年1月, 77~100ページ)。
- [94] 星野妙子「メキシコの経済発展と民族系企業の形成——ビンボー・グループ(製パン業)の事例——」(『アジア経済』第31巻第10号, 1990年10月, 2~17ページ)。
- [95] 細野昭雄「ラテン・アメリカの『構造学派』」(『アジア経済』第6巻第1号, 1965年1月, 62~69ページ)。
- [96] 細野昭雄「プレビッシュの経済思想」(『アジア経済』第6巻第3号, 1965年3月, 17~38ページ)。
- [97] 細野昭雄「チリの経済構造と経済政策——アジェンデ政権の成立まで——」(I) (II) (『アジア経済』第14巻第11号, 1973年11月, 20~40ページ; 第15巻第2号, 1974年2月, 39~56ページ)。
- [98] 細野昭雄『ラテンアメリカの経済』東京大学出版会, 1983年。
- [99] 細野昭雄「チリの銅産業と銅政策」(『アジア経済』第27巻第12号, 1986年12月, 24~44ページ)。
- [100] 細野昭雄編『ラテンアメリカの地域協力と工業化』研究参考資料284, アジア経済研究所, 1980年。
- [101] 堀坂浩太郎「ブラジルのコンピューター産業——先端産業育成の1モデルケース——」(丸谷吉男編『ラテンアメリカの経済開発と産業政策——累積債務危機下の戦略産業——』研究双書356, アジア経済研究所, 1987年, 155~180ページ)。
- [102] 増田義郎「序言——ナショナリズムとラテン・アメリカ——」([104]所

- 収, 3～12ページ)。
- [103] 増田義郎「ラテン・アメリカの植民地時代と文化的アイデンティティーの問題」([104] 所収, 13～33ページ)。
- [104] 増田義郎編『ラテンアメリカのナショナリズム』アジア経済調査研究双書 239, アジア経済研究所, 1977年。
- [105] 松下洋「第2次大戦時におけるアルゼンチン中立外交の史的考察——英ア関係を基軸として——」(『アジア経済』第12巻第11号, 1971年11月, 2～33ページ)。
- [106] 松下洋「1983年のアルゼンチンの民主化に関する一考察」([108] 所収, 115～146ページ)。
- [107] 松下洋・遅野井茂雄「ラテンアメリカの民主化——理論的考察と諸条件——」([108] 所収, 3～47ページ)。
- [108] 松下洋・遅野井茂雄編『1980年代ラテンアメリカの民主化』研究双書348, アジア経済研究所, 1986年。
- [109] 松山博文「メキシコ革命期におけるアシエンダと村落——モレロス州の場合——」(『アジア経済』第25巻第11号, 1984年11月, 18～31ページ)。
- [110] 丸谷吉男「国有化以後におけるメキシコ国营石油企業の発展」(『アジア経済』第11巻第3号, 1970年3月, 44～63ページ)。
- [111] 向江龍司「チリにおける政治変動と再民主化」(Ⅰ)(Ⅱ)(『アジア経済』第27巻第6号, 1986年6月, 26～42ページ; 第27巻第7号, 1986年7月, 60～77ページ)。
- [112] 山崎馨「キューバ農業の社会主義的転換」(『アジア経済』第14巻第3号, 1973年3月, 18～44ページ)。
- [113] 山崎春成「ラテン・アメリカの雇用問題と農業構造」(『アジア経済』第14巻第4号, 1973年4月, 2～19ページ)。
- [114] 山田睦男「革命前メキシコの本綿工業における移民企業者の役割——オリサバ地方のケース・スタディ——」(『アジア経済』第9巻第4号, 1968年4月, 38～63ページ)。
- [115] 山田睦男「ナショナリズム」([121] 所収, 99～150ページ)。
- [116] 山田睦男「政治体制とエリート——権威主義の理論と検証——」([121] 所収, 151～170ページ)。
- [117] 山田睦男「現代ブラジルの権威主義体制とイデオロギー」(『アジア経済』第17巻第1・2号, 1976年2月, 153～172ページ)。
- [118] 山田睦男「ガイゼル政権の軌跡——ブラジルの政治体制の制度化と正統性の考察——」(『アジア経済』第18巻第10号, 1977年10月, 23～32ページ)。
- [119] 山田睦男「現代ブラジルのナショナリズムと対外政策——1964～1976年——」([104] 所収, 139～172ページ, 222～224ページ)。

- [120] 山田睦男「ブラジルの対外政策と内外環境——最近10年間の新傾向を中心に——」([74] 所収, 111~135ページ)。
- [121] 山田睦男編『現代ブラジルの社会変動』研究参考資料238, アジア経済研究所, 1975年。
- [122] 山本進「ラテンアメリカの経済発展を阻害している条件をめぐって」([30] 所収, 365~373ページ)。
- [123] 湯川攝子「メキシコの工業化と産業構造」(『アジア経済』第14巻第11号, 1973年11月, 41~58ページ)。
- [124] 湯川攝子「メキシコの農業開発と貧困問題」(『アジア経済』第17巻第8号, 1976年8月, 18~35ページ)。
- [125] 吉田秀穂「A・G・フランクのラテンアメリカ研究——その形成過程を中心に——」(『アジア経済』第12巻第11号, 1971年11月, 90~103ページ)。
- [126] 吉田秀穂「いわゆる『独立社会主義者』グループの研究」([30] 所収, 102~139ページ)。
- [127] 吉田秀穂「チリ農業問題の発生過程——1930年代を中心としたチリ農業の変化——」([78] 所収, 121~157ページ)。
- [128] 吉田秀穂「チリ軍事政権の『国家の再建』について」(『アジア経済』第18巻第10号, 1977年10月, 62~84ページ)。
- [129] 吉田秀穂『チリのアジェンテ政権期の理論と政策』研究参考資料281, アジア経済研究所, 1979年。
- [130] 吉田秀穂「軍政下チリの経済政策と経済構造の変容——自由主義的政策の失敗——」([44] 所収, 159~189ページ)。
- [131] 吉田秀穂「チリにおける民主化問題の基本的構図——経済社会構造と政治制度を中心に——」([108] 所収, 225~264ページ)。
- [132] 吉田秀穂「チリの民主化問題と新政権の課題」(『アジア経済』第31巻第11号, 1990年11月, 35~55ページ)。
- [133] 米村明夫「メキシコの教育発展」(『アジア経済』第23巻第1号, 1982年1月, 35~55ページ)。
- [134] 米村明夫『メキシコの教育発展——近代化への挑戦と苦悩——』アジアを見る眼69, アジア経済研究所, 1986年。
- [135] 米村明夫「メキシコ首都圏における低所得労働力の増大と教育」([7] 所収, 225~261ページ)。
- [136] 米村明夫「ラテンアメリカにおける都市下層研究の理論的展開——近代化論的パラダイムから従属理論的パラダイムへ——」(I) (II) (『アジア経済』第32巻第4号, 1991年4月, 2~13ページ; 第32巻第5号, 1991年5月, 29~47ページ)。